

大学コンソーシアムひょうご神戸
2022年度 第4回 FD・SD委員会
議事次第

日 時：2022年11月30日（水）持ち回り開催

回答期限：2022年12月8日（木）15時

委員校：神戸学院大学（委員長校）神戸薬科大学（副委員長校）、
兵庫大学（副委員長校）、芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、
甲南大学、神戸海星女子学院大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、
神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和女子大学、神戸大学、
神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、聖和短期大学、
園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、
兵庫医療大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、兵庫大学短期大学部
(計25校)

1. 審議事項

(1) 2022年度事業の実施内容（結果）と自己評価について（資料1）

2. 報告事項

(1) なし

以上

2022年11月吉日

大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 中井 伊都子

拝啓 晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当コンソーシアムでは、各事業委員会にて実施頂きました事業について「自己評価」を作成していただき、その内容をもとに企画運営委員会及び理事会にて事業の継続・改善等を検討することとしております。

つきましては、当コンソーシアムの活動の更なる充実のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

敬具

記

1. 各事業委員会への依頼内容と提出期限について

依頼内容：2022年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成、提出

2022年度事業計画（添付1）に基づき、プログラムごとに実施内容（結果）と自己評価を作成してください。12月以降に実施予定のプログラムについては、進捗状況を具体的に記入ください。

提出期限：12月12日（月）正午

2. 今後のスケジュール

- (1) ひょうご産官学連携協議会の構成員である兵庫県及び経済団体（兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、兵庫県中小企業団体中央会）の意見聴取：12月
- (2) 第9回企画運営委員会による事業改善提案の検討：12月
- (3) 第6回理事会による事業改善提案の審議：1月
- (4) 各事業委員会へのフィードバックと2023年度事業計画・予算提出依頼：1月
- (5) 第11回企画運営委員会にて2023年度事業計画・予算検討：2月
- (6) 第7回理事会による2023年度事業計画・予算審議：3月
- (7) ひょうご産官学連携協議会にて、2023年度事業計画・予算審議：3月

(添付書類)

- ・添付1 2022年度 事業計画（事業委員会別）

以上

【問い合わせ先】大学コンソーシアムひょうご神戸事務局（担当：大濱・小畑）
電話：078-271-0233 メール：kanri@consortium-hyogo.jp

【2022年度 FD・SD委員会 自己評価】

委員長校 : 神戸学院大学

副委員長校: 兵庫大学、神戸薬科大学

委員校: 芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸海星女子学院大学、
神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和女子大学、
神戸大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、園田学園女子大学、
園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫医科大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、
兵庫大学短期大学部 計25校

<目的>

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題⑥】大学教職員の研修機会の提供と交流の促進

教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供する。県下の大学等高等教育機関の関係者に研修交流機会を提供することにより、相互の立場で具体的な施策に結びつく議論が行われる、関連な意見交換の場を創出する。

上記の体制の構築並びに、必要な取り組みは本委員会にて実施する。

<内容>取組課題⑥に対する「個別取組」は、下記の通り。

1.加盟校間でのFD・SDセミナーの公開

加盟校が自学で開講している多様な研修プログラムを加盟校に開放することにより、加盟校教職員に多様な研修・交流の機会を提供する。教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

・「大学運営」に関する科目の受講支援等

2.FD・SD情報交換会、セミナー等の開催

加盟校に有益な公開セミナーを実施することで、教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

・FD・SDトップセミナー等

上記の取組について、運営体制の構築と推進は、中長期計画Ⅱ期5か年において段階的に取り組む。

期中において新規事業やプロジェクト企画の必要性がある場合は、本委員会にて検討して事業推進を行う。

<期待される効果>

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員の資質向上に寄与し、加盟校の担当者間の情報交換・交流や加盟校間での人材交流を促進する場が提供できる。

課題⑥ 大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		予算額
取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	0円
取組2	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	500,000円

【2022年度 FD・SD委員会 自己評価(課題⑥取組1-1)】

【⑥取組1】達成目標	各年セミナー5件以上
【⑥取組1】活動指標	参加者数100人以上／年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
達成目標 【⑥取組1-1】	大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供する。
課題を解決する 取組概要 【⑥取組1-1】	加盟校間でのFD・SDセミナーの公開 1、加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開
活動指標 【⑥取組1-1】	公開セミナー開催数:5件以上／年

内容 (結果)	<p>「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」について、以下の通り計画・実施した。</p> <p>1) 加盟校のFD・SDセミナーの情報を収集、コンソホームページ上で提供した。 (1) 本仕組みを活発に運用していくため、半年に1回程度、委員校への協力依頼を行った。 また、加盟校からの公開依頼がある場合は、随時、対応を行った。 (2) 加盟校からの情報提供方法に、Webフォームを取り入れ、情報提供の方法を簡便化することで、更なる利用促進を図った。</p> <p>2) 委員会・各セミナー等において適宜、本事業について理解と協力を求めた。</p> <p>【結果】2022年10月31日現在、5大学7件の情報提供があった。 学校名・開催日・テーマ・参加者数(報告分)の詳細は以下の通り(学校名・50音順)</p> <p>■大手前大学(1件) ・2022年9月29日「大学におけるジェンダー平等 – アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)の解消に向けて–」計158名(学内)</p> <p>■関西学院大学(1件) ・2022年9月7日「大学の授業と著作権・個人情報保護」計166名(学内31名、加盟校6校7名、他大学80校124名、関係機関4名)</p> <p>■神戸学院大学(3件) ・2022年6月17日「ボーアイ4大学合同FDセミナー コロナ禍における授業のハイブリッド化がもたらしたもののこの経験をコロナ後の授業にどう活かすか–」計51名(学内28名、加盟校12校22名、他大学1校1名) ・2022年9月2日「神戸学院大学全学教育推進機構主催 FDワークショップ 教育活動の振り返りからの気づきを明日に活かす」計23名(学内17名、加盟校2校5名、他大学1校1名) ・2022年10月27日「神戸学院大学全学教育推進機構主催 データサイエンス教育FDセミナー」計50名(学内44名、加盟校5校6名)</p> <p>■神戸薬科大学(1件) ・2022年7月19日「神戸薬科大学 FD講演会」計87名(学内)</p> <p>■兵庫大学(1件) ・2022年11月2日「第2回兵庫大学 教職員FD・SD研修会(オンライン)」計151名(学内139名、加盟校8校12名)</p> <p>3) 年1回、FD・SDセミナーの実施内容に関するアンケートを実施。 引き続き、加盟校のニーズに合うセミナーの公開と、参画校の拡充に取り組む。2023年1月～3月にアンケートを実施予定。</p>
------------	--

新しい試み等 (事業計画に記載)	加盟校からのFD・SDセミナー情報の提供方法について、Webフォームを取り入れ、手続きの簡便化を図る。セミナー情報を提供しやすい仕組みを作ることで、本仕組みの利用のさらなる活性化を目指す。
---------------------	--

事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	0	0	0	

自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	3
	<p>情報提供フォームを改正し、手続きの簡便化を図る試みが良かったこともあり、約半年間で活動指標である公開セミナー開催数年5件以上は達成した。しかし、活動目標「大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供すること」の成果として、期待した参加加盟校の増加や偏りの解消は道半ばである。今後も継続的に参加校への呼びかけを行い、広く本プラットフォームを活用していきたい。</p>			

■自己評価基準
(対到達目標)

- 4: 当初計画を上回って達成
- 3: 当初計画を達成
- 2: 当初計画をやや下回った
- 1: 当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

- 4: 本プログラムは継続すべき
- 3: 本プログラムは継続しても良い
- 2: 本プログラムの継続には改善が必要
- 1: 本プログラムは中止すべき

理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	
--------------------------------	--

【2022年度 FD・SD委員会 自己評価(課題⑥取組1-2)】

【⑥取組1】達成目標	各年セミナー5件以上
【⑥取組1】活動指標	参加者数100人以上／年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標 【⑥取組1-2】	加盟校から4大学以上・10名以上が受講			
課題を解決する 取組概要 【⑥取組1-2】	加盟校間でのFD・SDセミナーの公開 2、「大学運営」に関する科目の受講支援			
活動指標 【⑥取組1-2】	大学教職員の受講動機を高めるための周知活動をおこなう			
内容 (結果)	1)「大学運営」科目概要 ・科目名称: 大学運営 ・開講日程: 2022年度第3クォーター土曜日の13:00～16:00 ・開講場所: 関西学院大学大阪梅田キャンパス(アプローズタワー14階) ・シラバス: 別紙 2) 取組内容 周知活動として以下を実施 ①大学コンソーシアムひょうご神戸事務局を通じて各大学に受講のご案内を送付 ②関西学院大学経営戦略研究科のwebサイトにてプログラムの周知、受講のご案内 (ご参考) 加盟校4校8名が受講			
新しい試み等 (事業計画に記載)	特になし			
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	0	0	0	
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	4
	加盟校からの受講生があり、多様な研修・交流の機会を提供できていると考える。来年度の開講に向けても引き続き加盟校への広報を行ってきたい。			
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)	■自己評価基準 (対到達目標)	4: 当初計画を上回って達成 3: 当初計画を達成 2: 当初計画をやや下回った 1: 当初計画を下回った	■自己評価基準 (対継続性)	4: 本プログラムは継続すべき 3: 本プログラムは継続しても良い 2: 本プログラムの継続には改善が必要 1: 本プログラムは中止すべき

シラバス情報照会 照会画面

条件指定画面 結果一覧画面 照会画面

シラバス情報/Syllabus Information

授業情報/Class Information

授業コード/Class code	97258000	開講キャンパス/Campus	大阪梅田キャンパス/Osaka Umeda Campus
授業開講年度/Academic Year	2022年度		
管理部 署/Administrative Department	経営戦略研究科/IBA/Institute of Business and Accounting		
【科目ナンバー/Course Number】 授業名称/Class Title	【600】 大学運営/University Administration		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期前半/Fall (1st Half)
担当者/Instructor	江原 昭博 (EHARA AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
授業形態/Course Implementation Format	対面授業/Face to face format		
授業形態（オンライン受講許可学生）/Course Implementation Format (For Students permitted to take classes online)	同時双方向型オンライン授業/Online format: Simultaneous and two-way		
授業目的/Course Purpose	<p><重要> 本講義は開放型SD講座を兼ねる。授業計画は外部募集時期に確定する。以下の内容は昨年度のものであり、あくまでも参考情報である。詳細は経営戦略研究科ウェブサイト内該当ページを適宜参照されたい。</p> <p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p> <p>本講義の目的は、参加学生が、（１）本講義担当教員および各回招聘教員の提供する講義を通じた学修、（２）学生自身による大学運営に関する課題執筆、の２点を通じて、日々の業務の中では身につけることが難しい高等教育の大きな潮流における自らの業務の位置付けの再構築を行うことである。</p>		
授業目的(英文)/Course Purpose	<p>The purpose of this course is for students to</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. study through the lectures made by the faculty member in charge of this course as well as by the speaker invited to the class each time, and 2. writing on the assigned subject about college management, the students will reconstruct the positions of their work in the big trend of higher education that is difficult to learn in the day-to-day business operations. 		
到達目標/Learning Goals	<p>本講座参加学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、各回の講義による歴史的経緯(縦軸)と国際的な環境(横軸)を通じて高等教育の多種多様な課題を認識できる。 2、そうして認識された課題について、各回の学修を通じて自ら文章化し論理的に表現ができる。 3、そうして表出化された自らの考え方ををもとにして、意見交換や議論を進めることがで 		

	きる。 4、そうして身につけた総合的な学力要素に基づいて、自らの日常的な業務の理解・改善・向上に活用できる。
到達目標(英文)/Learning Goals	Students participating in this course will be able to: 1. recognize various issues facing higher education by historical background (vertical axis) and international environment (horizontal axis) presented in the lectures; 2. put in writing and logically express what they will have learned on the issues recognized; 3. exchange opinions and discuss with others based on their own ideas that came to the surface through the process above; and 4. apply the comprehensive learning factors acquired in this learning to their daily business operation for better understanding, improvement, and enhancement.
授業の概要・背景/Course Outline	* <重要> 本講義は開放型SD講座を兼ねる。授業計画は外部募集時期に確定する。以下の内容は昨年度のものであり、あくまでも参考情報である。 *
授業方法 Course Format	ハイフレックス講義。アプリケーションはzoomを使用する。 各週に取り上げるイシューに応じて、各回の授業序盤では本講座担当教員による包括的な講義を行い、授業中盤に当該分野の第一人者による講演を組み合わせ理解を進める。授業終盤では授業準備と前半講義を踏まえた上で、講座担当者とは各回講師を中心とするディスカッションを通じて当該トピックの今日的意義と実践的な知見を身につける。各回終了後には毎週振り返りを行い、学期末の最終レポートへ向けて身につけた知見を有機的に紡ぎあげる。
検索キーワード/Keywords	

	授業計画 Topic	授業外学修 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	講義：メインピック「高等教育のパラダイムシフト」 タイトル「高等教育の過去・現在・未来：入試改革の軌跡と感染症を踏まえての課題」	講義開始前課題の提出 今回の復習：講義レポート1を提出する
第2回 Session 2	高等教育の大きな潮流を俯瞰して各大学の実情を踏まえた知見の獲得、感染症、オンライン、入試改革の影響も加味	次回の予習：事前課題を提出する
第3回 Session 3	講義：メインピック：文部科学省が進める最先端の文教政策 タイトル「現在の文教政策：中教審の議論を踏まえて」	今回の復習：講義レポート2を提出する
第4回 Session 4	中央教育審議会、ニューノーマル、ギガスクールを切り口に	次回の予習：事前課題を提出する
第5回 Session 5	講義：メインピック：課外活動の推進と学生の成長	今回の復習：講義レポート3を提出する
第6回 Session 6	ブラック部活、ブラック校則は、課外活動にどのような影響を与えるか、学生との関係はどうか	次回の予習：事前課題を提出する
第7回 Session 7	講義：メインピック：大学広報戦略の課題は見えているか	今回の復習：講義レポート4を提出する
第8回 Session 8	番組制作、メディア、ブランディング、プロデューサーの切り口で	次回の予習：事前課題を提出する
第9回	講義：メインピック「学習者本位の教育改革の理論と実践」	今回の復習：講

Session 9		義レポート5を提出する
第10回 Session 10	アクティブラーニングの本格的理解、学生と学習の変容、トランジション、学生に関する各大学の実情を踏まえた知見の獲得	次回の予習：事前課題を提出する
第11回 Session 11	講義：メインピック：教育の国際的現状と大学職員	今回の復習：講義レポート6を提出する
第12回 Session 12	比較教育、大学経営・政策コース、大学職員論の経験から見てきたこと	次回の予習：事前課題を提出する
第13回 Session 13	講義：メインピック：マーケットデザインと高等教育	今回の復習：講義レポート7を提出する
第14回 Session 14	スタンフォードから東京大学と世界の研究の最前線から、マッチング理論の社会実装まで幅広い知見を獲得	最終レポートを提出する
第15回 Session 15	<重要>本講義は開放型SD講座を兼ねる。授業計画は外部募集時期に確定する。上記内容は昨年度のものであり、あくまでも参考情報である。詳細は経営戦略研究科ウェブサイト内該当ページを適宜参照されたい。 ~~~~~ ~~~~~	
授業外学修 Study Required outside Class	各講義について事前学習課題を課すので各自事前準備を済ませた上で講義に参加する。講義終了後、毎回事後学習を課す。特に事後学習については各回の課題を通じて最終レポートにつながるものであり、積極的な取り組みを期待する。課題の提示及び提出についてはLMSを活用する。	

教科書 Required texts	特定の教科書は使用しない。
-----------------------	---------------

参考文献・資料 Reference books	各回の参考文献および資料については、各回の招聘後援者およびトピックによって変更が想定されるので、各回内容に合わせてLMSを通じて担当教員より指示する。
----------------------------	---

学位授与の方針との 関連 Relationship to Diploma Policy	各授業科目は、各学部・研究科の定めるディプロマ・ポリシー（DP）・カリキュラム・ポリシー（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 各学部・研究科のDP、CPや教育課程表（授業科目一覧等）は、下記リンクこちらに掲載していますので学修計画の参考にしてください。 https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/reference?typeCd=0&cabinetId=557&directLink=1 ※kwicへのリンクとなります（在学生のみ閲覧可）
--	---

	種別 Type備考 Note	割合 Percentage	評価基準等 Grading Criteria etc.
成績評価 Grading	定期試験に代わるレポート/Term paper to replace the final examination (02)	35 %	期末試験（レポート試験）
	その他/Others (99)	65 %	各回終了後の授業レポート (35%)、事前学習と授業参加 (30%)
	備考 Note 授業準備状況、講義への積極参加、各回の事後レポートの内容、学期末レポートによる総合的成績評価		

備考 Note	<注意> 本講座の性格上、各回の招聘講演者の都合による日程や内容の調整が発生することにご注意 いただきたい。よって履修開始後も各回の講義やLMSを通じた連絡についても必ず注目いた だきたい。最高の講座を提供するため多忙な講師陣の調整は学期開始直前まで行われるの で、講座開始時の事前配布書類には必ず目を通していただきたい。
更新日時/Date of Update	2022年03月23日 14時12分35秒

教室情報/Classroom Information

項 番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2022年 度	秋学期前半/Fall (1st Half)	土曜 3 時限/Saturday 3	秋学期前半/Fall (1st Half)	OC1405
2	2022年 度	秋学期前半/Fall (1st Half)	土曜 4 時限/Saturday 4	秋学期前半/Fall (1st Half)	OC1405

※記載されている授業情報は変更されることがあります。最新の情報は、kwicを確認してください。

* Class Information are subjected to changes. Make sure to check for the latest information on the kwic.

戻る/Back

【2022年度 FD・SD委員会 自己評価(課題⑥取組2-1)】

【⑥取組2】達成目標	各年参加者数50名以上
【⑥取組2】活動指標	開催数: 3回以上/年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
達成目標【⑥取組2-1】	大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有することにより、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める。
課題を解決する取組概要【⑥取組2-1】	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催 1、加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催 (FD・SDトップセミナー)
活動指標【⑥取組2-1】	開催数: 1回以上/年

内容 (結果)	<p>〈FD・SDトップセミナー〉 テーマ:「GIGAスクール構想がもたらす大学教育への影響 -次代の学生像を考える-」 初等中等教育のコロナ禍におけるオンライン授業実施で「GIGAスクール構想」が3年前倒しになった。タブレットをはじめとしたICT活用など、授業方法や学習形態の変化は今後の高等教育にも大きな影響を及ぼすと考えられる。 ①総論: 高等教育のあり方、とりわけ大学におけるICTを利活用した教育の推進などについて、中央教育審議会等の関係者から講義いただく。 ②各論: 兵庫県内のICT活用等の実践を初等中等教育現場の関係者から講義いただく。 ③総括: 次代の学生像について 同セミナーを実施することにより、兵庫県全体の高等教育の改革に資する情報共有の場を創出するとともに、大学幹部および教職員の資質・能力の向上を図る。</p> <p>第一部 「これからの高等教育のあり方」 講師: 村田 治 氏 (関西学院大学長、文部科学省中央教育審議会委員) 第二部 「初等中等教育における情報教育・ICT活用教育の現状と未来」 講師: 森山 潤 氏 (兵庫教育大学学校教育研究科教授、兵庫県版プログラミング教育スタートパック構築事業協議会委員長)</p> <p>参加者合計113名 内加盟校 16校67名 (大手前大学、大手前短期大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸市外国語大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸常盤大学、神戸親和女子大学、神戸薬科大学、園田学園女子大学、姫路大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫大学、兵庫県立大学、流通科学大学)、その他大学等39名、企業・団体2名、コンソ事務局5名</p>
------------	--

新しい試み等 (事業計画に記載)	新しい取り組みなどを記載 ・高等教育のみならず、初等中等教育との接続を俯瞰する視点から、中期的に計画立案等が必要な喫緊の課題をテーマとして設定する。 ・専用ポスター等を作成し、より多くの大学の参加を促進する
---------------------	---

事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	500,000	49,115	450,885	取組2-1、2-2 の合計、2022年10月31日現在

自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
	テーマ:「GIGAスクール構想がもたらす大学教育 -次代の学生像を考える-」 各論として兵庫県版プログラミング教育スタートパック構築事業協議会委員長・兵庫教育大学教授 森山潤氏から実際に兵庫県初等教育で実施している事例を講義いただき、総論を今後の高等教育のあり方とし、中央教育審議会委員・関西学院大学学長 村田治氏から日本の大学教育の変化・方向性などを講義いただいた。初等教育から高等教育まで、授業方法や学習形態を中心とした教育変化に直面するなか、当セミナーを実施したことで、今後の教育課題を明確化し、教育改革のための新しい視点を持つことができた。また、加盟校の教職員の資質向上を図るとともに、教職員間のさらなる交流を促進できた。			

■自己評価基準
(対到達目標)

- 4: 当初計画を上回って達成
- 3: 当初計画を達成
- 2: 当初計画をやや下回った
- 1: 当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

- 4: 本プログラムは継続すべき
- 3: 本プログラムは継続しても良い
- 2: 本プログラムの継続には改善が必要
- 1: 本プログラムは中止すべき

理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)	
----------------------------	--

【2022年度 FD・SD委員会 自己評価(課題⑥取組2-2)】

【⑥取組2】達成目標	各年参加者数50名以上
【⑥取組2】活動指標	開催数:3回以上/年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標 【⑥取組2-2】	事業終了時、受講者アンケート調査において、「自学の内部質保証活動にとって有益であった」との回答が平均70%以上であることを目指す。			
課題を解決する 取組概要 【⑥取組2-2】	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催 2、「内部質保証システム」構築に向けた取り組みの推進			
活動指標 【⑥取組2-2】	セミナー・勉強会開催数:2回以上/年			
内容 (結果)	<p>「内部質保証システム」をテーマとしたFD・SDセミナーを開催し、加盟校での啓発活動を行うと共に、実務的な勉強会を実施予定である(2022年11月14日時点での報告)。</p> <p>基本的な活動内容</p> <p>1)「内部質保証システム」をテーマとしたセミナーや勉強会の開催 (例えば、IRや認証評価に関するもの)</p> <p>【1件目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー内容:「内部質保証システム」に関するセミナー —今こそ、基本的な考え方に立ち返り、実質化を考えたい! ・講師:神戸大学 戦略企画室 准教授 高田 英一 氏 ・開講日時:2022年12月23日(金)14:00~16:00 ・開催方法:Zoomオンライン <p>【2件目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー内容:Excelによる統計解析研修(仮) ・講師:未定 ・開講日時:2023年2月頃予定 ・開催方法:未定 			
新しい試み等 (事業計画に記載)				
事業収支	収入(円) 500,000	支出(円) 49,115	収支(円) 450,885	備考 取組2-1、2-2の合計、2022年10月31日現在
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	4
	12月23日開催の件について、事務局から事前に加盟校へ参加可否を確認したところ、7校20名の方が参加可能とのことであった。引き続き一定の需要が見込まれるため、次年度以降も継続した実施が望まれる。			
■自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った		■自己評価基準 (対継続性)	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)				